「第2回 妊活®および不妊治療に関する意識と実態調査」調査結果概要

★文中の（ ）は（昨年2017年データ→本年2018年データ）を示しています

①事前調査

20～40代男女の約５割が、「いつか子どもを授かりたい」既婚女性の3人に1人、既婚男性の4人に1人が、「不妊に悩んだ経験あり」 p1

- 少子化時代と言われるものの、約5割が子どもを「授かりたい」と希望し、昨年と比べても増加傾向（全体44.8%→47.9%、男性44.5%→50.0%、女性45.1%→45.8%）。女性より男性のパパ願望が高く、特に20代男性は59.2%→68.0%と一層高い
- しかし、既婚女性の3人に1人（32.9%→35.7%）、既婚男性の4人に1人（25.7%→27.1%）が「不妊に悩んだ経験があり」、昨年よりも増加傾向

既婚女性の４割弱が、「妊活経験あり」また、既婚女性の７人に１人、既婚男性の８人に１人が、「不妊治療を経験している」 p2

- 既婚男性の4人に1人（23.5%→26.5%）、既婚女性の3人に1人（30.5%→35.1%）が妊活経験「あり」。既婚男性の8人に1人（11.6%→12.7%）、既婚女性の7人に1人（14.1%→15.4%）が不妊治療を経験、どちらも昨年より増加傾向

②本調査

妊活を始めたのは、女性は「自身が先」（54%）が多く、男性（10%）と5倍の開き 不妊に関して女性が「話をしたい相手」のトップは、「パートナー」で88% 一方、実際に「パートナー」が「話をしやすい相手」と回答した女性は75%で、13%の開き P4 P5

- 妊活を「自身が先に始めた」のは、男性（14.0%→10.0%）より女性（60.0%→54.3%）が依然多いが、「一緒に始めた」が男女ともに増えている（男性：39.7%→40.7%、女性：28.3%→36.7%）
- 妊活や不妊について「話をしたい相手」は、「パートナー」が男女ともに最も多く（男性85.3%、女性88.0%）、「話をしやすい相手」でも「パートナー」がトップ（男性79.0%、女性75.0%）。だが、男女とも「話をしたい」と「話をしやすい」の間には差があり、特に女性にその傾向が強い

不妊症を自覚して受診するまで、女性の４割超が「半年以上」かかり、昨年比で１割増の長期化傾向 年齢とともに受診まで時間を要する傾向が強くなり、40代女性では55%が「半年以上」かかっている p7

- 妊活後、自分が不妊症かもと思うまでの期間「半年以上」、男性30.0%→32.0%、女性35.3%→45.7%と女性が急増
- 不妊を自覚してから受診するまでの期間「半年以上」、男性38.1%→43.7%、女性36.8%→46.5%と女性の約半数にも
- 受診まで「半年以上」かかる女性の割合は年代が上がるほど高くなり、40代は55.4%と過半数に

受診に時間がかかる理由は、「自然に任せたかったから」。その後6割超が「もっと早く受診すれば」と後悔 年齢的な理由で“能動的に受診する”女性、パートナーにすすめられてやっと“受動的に受診する”男性 p8 P9

- 受診まで3ヵ月以上かかった理由1位「自然に任せたかった」（男性56.3%→60.1%、女性53.3%→63.1%）、昨年より増加傾向
- 「もっと早く病院・クリニックを受診すればよかった」（男性68.9%→62.5%、女性73.5%→68.6%）と6割以上が後悔
- 受診した理由、男性は「パートナーにすすめられたから」（57.5%）、女性は「自身の年齢が気になり始めたから」（39.7%）

不妊治療に望む3大ポイントは2高1低。「高効果」「高安全」「低価格」 p17

- 「効果」（男性80.9%、女性86.0%）、「安全性」（男性68.4%、女性73.6%）、「治療費が安い」（男性54.4%、女性65.3%）

調査概要(ともにインターネット調査)

①事前調査 ■実施時期 2018年6月1日(金)～6月2日(土) ■調査対象 全国の20代～40代男女26,490人（男性13,570人、女性12,920人）

②本調査 ■実施時期 2018年6月2日(土)～6月4日(月) ■調査対象 妊活経験のある既婚男女600人（男女各300人ずつ）

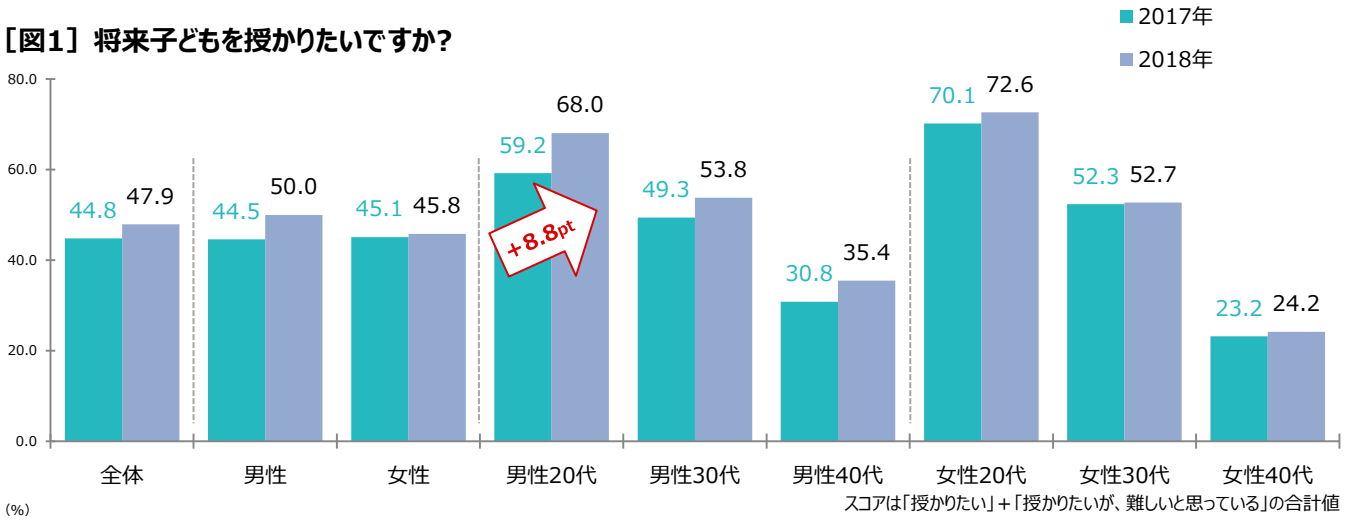
20～40代の一般男女に聞く、妊活・不妊治療の実態（事前調査）

20～40代の男女の約5割が、「いつか子どもを授かりたい」
既婚女性の３人に1人、既婚男性の4人に1人が、「不妊に悩んだ経験あり」

20～40代の男女（男性13,570人、女性12,920人）を対象とした調査を行い、昨年（男性13,619人、女性13,070人）の結果と比較しました。

将来子どもを授かりたいかと聞くと、男女とも約5割が「授かりたい」（男性50.0%、女性45.8%）と回答しており、20代女性では72.6%が「授かりたい」と答えています。昨年の結果と比較すると、男女ともに子どもを希望する傾向が強くなっており、全体では昨年の44.8%から47.9%へ3.1ポイント高くなっています。女性は昨年とあまり変わらない（45.1%→45.8%／＋0.7pt）ものの、男性の希望はより高くなり（44.5%→50.0%／＋5.5pt）、子どもをほしいと考える男性が半数を占めています。
中でも20代男性は、昨年（59.2%）と比べて今年68.0%と8.8ポイントも高くなっています［図1］。

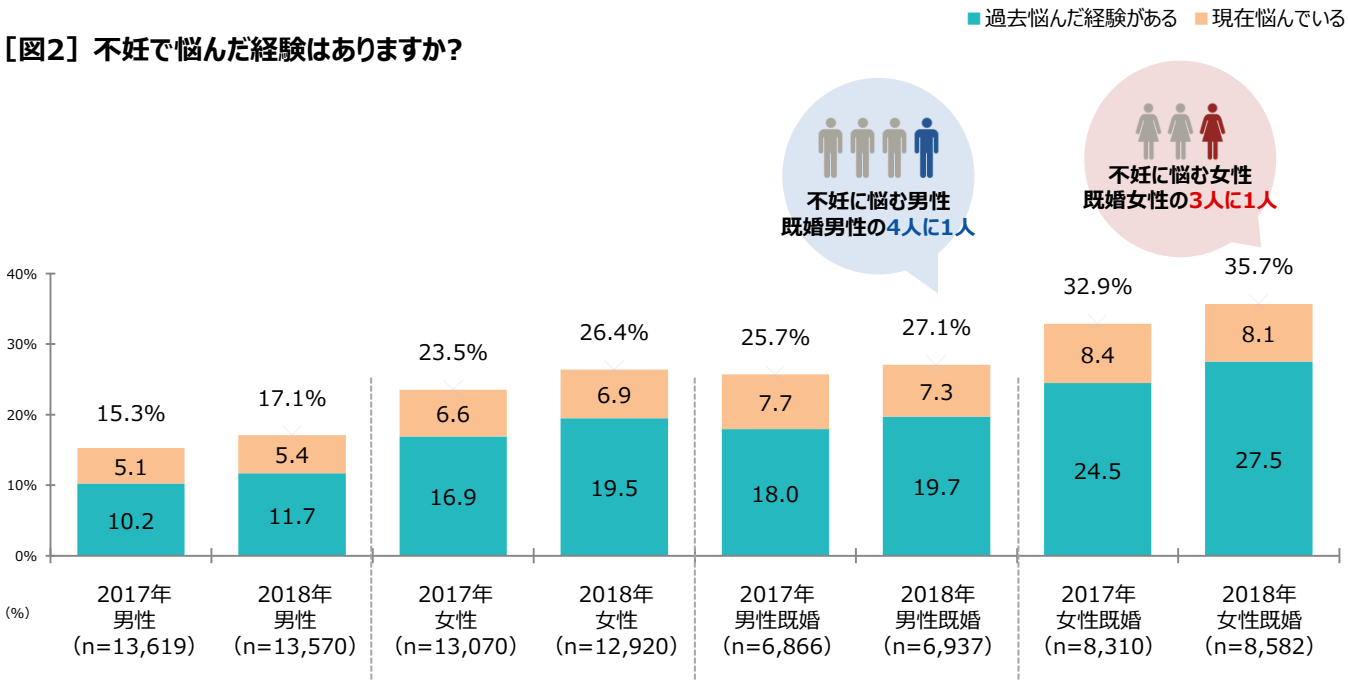
［図1］将来子どもを授かりたいですか?



次に不妊に悩んだ経験を聞くと、男性は17.1%（昨年15.3%）、女性は26.4%（昨年23.5%）が不妊に悩んだ経験があり、男女とも昨年よりも増えています。

これを既婚者で見ると、既婚男性は27.1%（昨年25.7%）、既婚女性は35.7%（昨年32.9%）と多く、昨年よりも一層不妊問題が大きくなっていることがうかがえます［図2］。
既婚男性の4人に1人、既婚女性の3人に1人は、不妊で悩んだ経験があり、その割合は増加の傾向を示しています。

［図2］不妊で悩んだ経験はありますか?

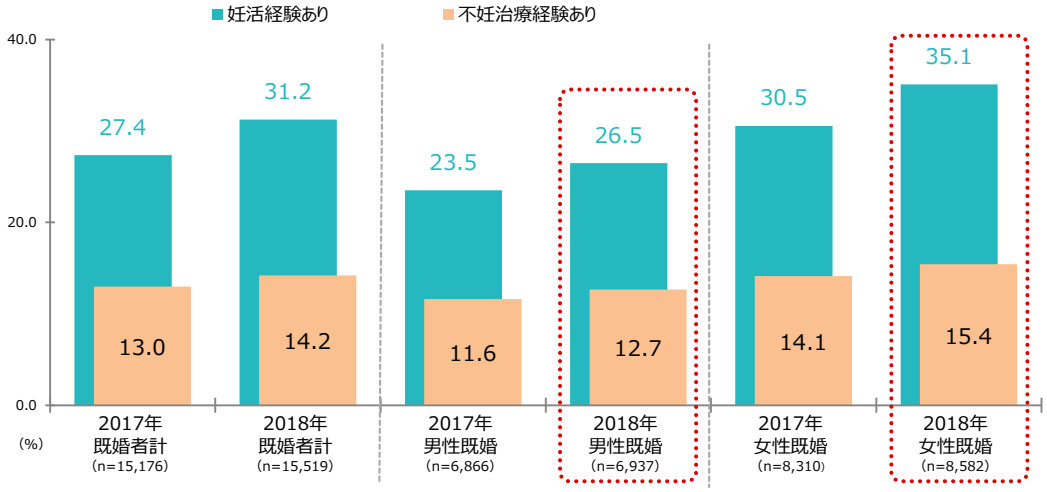


既婚女性の4割弱が「妊活経験あり」

また、既婚女性の7人に1人、既婚男性の8人に1人が、「不妊治療を経験している」

妊活とは「既婚・未婚を問わず将来的に子どもを授かりたいと願う人が、スムーズに妊娠するために、不妊治療だけでなく日常生活で取り組んでいる活動」と定義した上で、既婚者の妊活経験を聞いてみました。その結果、全体で31.2%（昨年27.4%）、既婚男性26.5%（昨年23.5%）、既婚女性35.1%（昨年30.5%）が妊活を経験しており、昨年よりも増えています。不妊治療経験者は既婚男性の8人に1人（11.6%→12.7%）、既婚女性の7人に1人（14.1%→15.4%）となり、昨年よりもわずかとはいえ増加しています［図3］。

［図3］妊活したことはありますか?



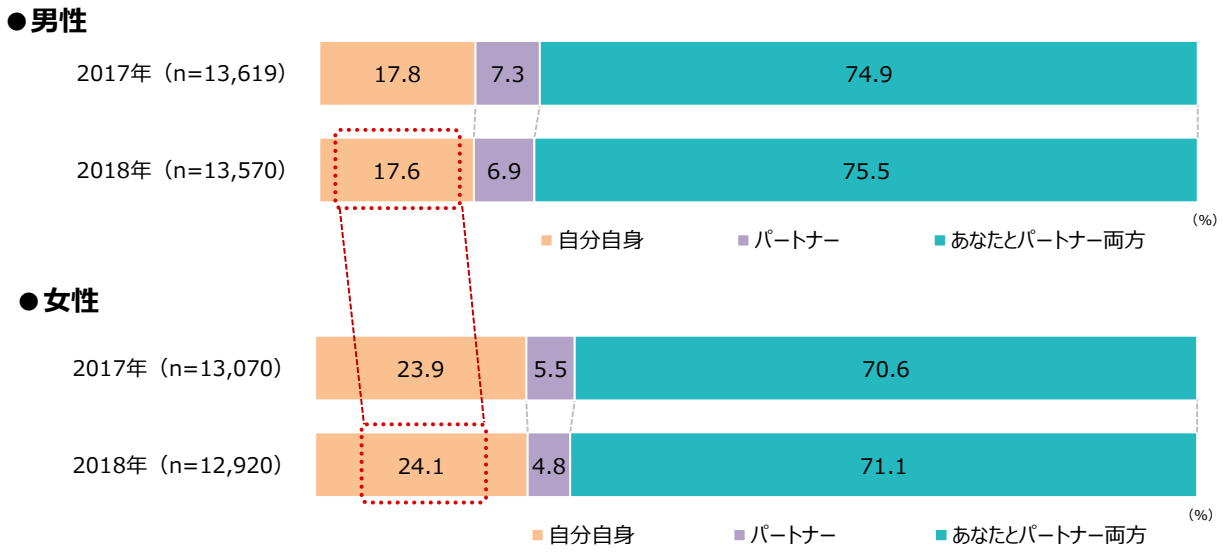
妊活は、「両方」で取り組むという考え方が主流

「不妊の原因は自分自身」と思う男性は17.6%、女性24.1%。昨年と比べると男性は0.2pt減

次に不妊に関する考え方を聞いてみました。まず、一定期間子どもを授からなかった場合、その原因は自分自身とパートナーのどちらにあると思うかと聞くと、男女ともに自分自身とパートナー「両方」（男性75.5%、女性71.1%）という意見が多く、7割以上を占めています。また、「パートナー」（男性6.9%、女性4.8%）に原因があるという意見は少ないものの、「自分自身」（男性17.6%、女性24.1%）に原因があると考えるのは、男性より女性に多くなっています。昨年と比べると、男性は0.2ポイント少なく（17.8%→17.6%）なっていますが、女性は逆に0.2ポイント増えて（23.9%→24.1%）います［図4-1］。

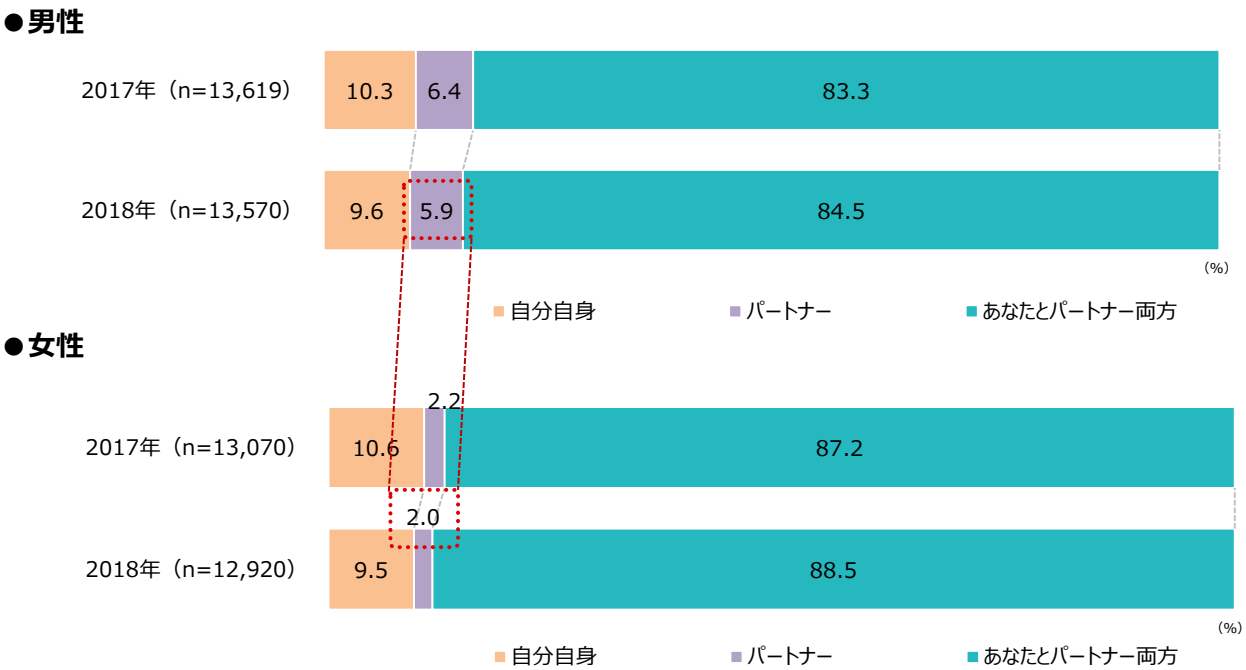
不妊はどちらかだけに原因があるという考えは少なくなっているものの、女性は自分に原因があると考えがちなようです。

［図4-1］子どもが授からない原因はどちらにあると思いますか?



また、妊活は自分自身とパートナーのどちらが取り組むべきだと思うかと聞くと、男女ともに8割以上が「両方」（男性84.5%、女性88.5%）と答えています。男性は、「自分自身」（9.6%）と「パートナー」（5.9%）の差が小さいのに対し、女性はその差が大きく、「パートナー」（2.0%）ではなく「自分自身」（9.5%）が取り組むべきと考える人が、男性に比べ多くなっています［図4-2］。［図4-1］同様、昨年との変化は見られず、女性の方が、パートナーではなく自分自身から妊活に取り組むべき、という意識が強い傾向は変わらないようです。

［図4-2］妊活はどちらが取り組むべきだと思いますか?



妊活経験者600人の既婚男女に聞く、妊活と不妊治療の実態（本調査）

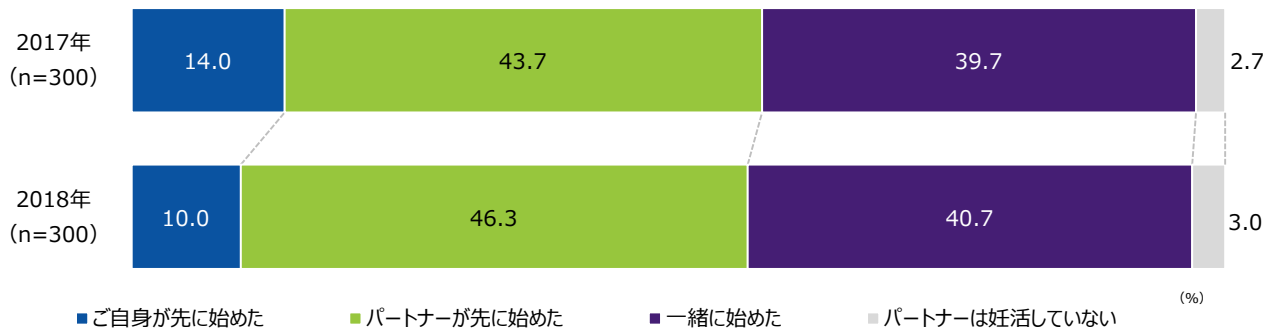
妊活を始めたのは、女性は「自身が先」（54.3%）が多く、男性（10.0%）と5倍の開き
一方、「一緒に始めた」と答える女性が昨年と比べ増加傾向（28.3%→36.7%）に

次に、妊活経験のある既婚男女600人（男女各300人ずつ）を対象に調査を行い、2017年（既婚男女各300人ずつ・計600人）の結果と比較しました。

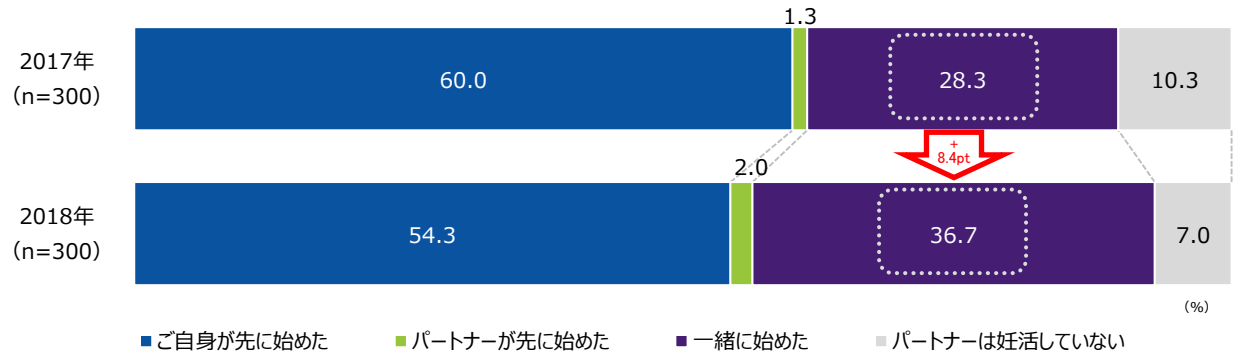
まず、妊活は自分とパートナーのどちらが先に始めたかと聞くと、「自分が先に始めた」のは男性10.0%（昨年14.0%）、女性54.3%（昨年60.0%）となり、妊活は女性から始めるケースが圧倒的に多くなっています。しかし、昨年と比べるとその割合は男女ともにやや少なくなり、「一緒に始めた」が男女とも昨年より増え、女性では8.4ポイントも多くなっています（男性：39.7%→40.7%、女性：昨年28.3%→36.7%）［図5］。女性のリードで一緒に妊活に取り組む様子がうかがえます。

［図5］妊活を先に始めたのは?

●男性



●女性



不妊に関して女性が「話をしたい相手」のトップは、「パートナー」で88%
一方、実際に「パートナー」が「話をしやすい相手」と回答した女性は75%で、13%の開き

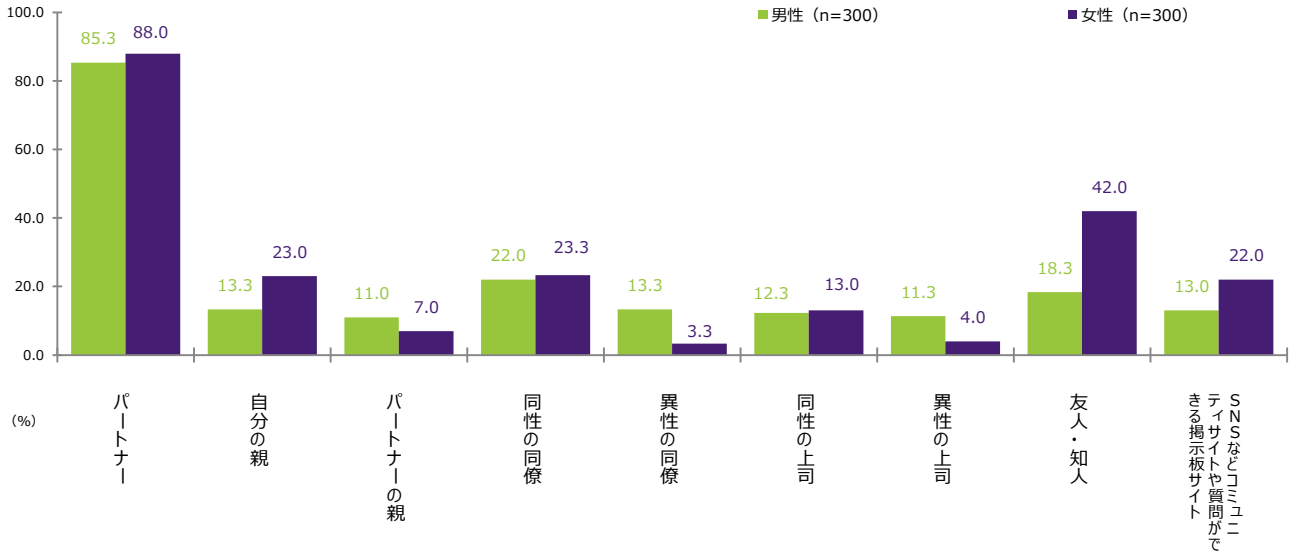
次に、妊活や不妊治療について、「話をしたい相手」と「話をしやすい相手」をそれぞれ聞いてみました。

話をしたい相手は、男女ともに「パートナー」が最も多くなっています（男性85.3%、女性88.0%）が、女性は42.0%が「友人・知人」に話したいと答えているのに対し、男性は「友人・知人」に話したいのは18.3%にとどまり、「同性の同僚」が22.0%となっています。また、「SNSなどコミュニティサイトや質問ができる掲示板サイト」で話をしたいと回答した人は、男性（13.0%）よりも女性（22.0%）に多くなっています［図6-1］。

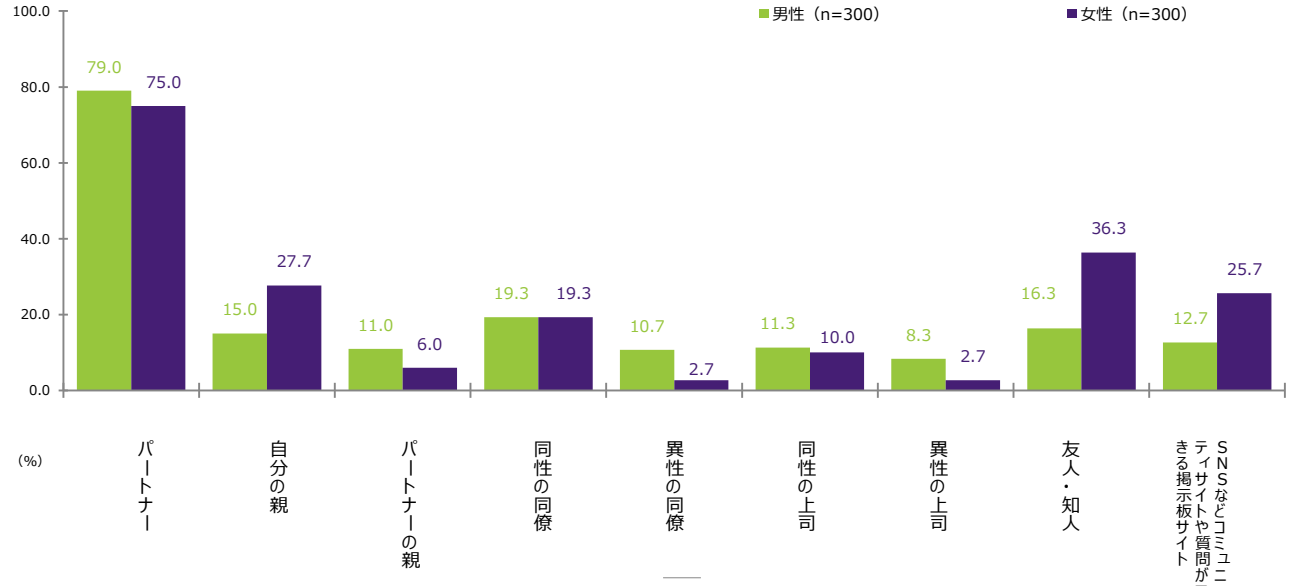
また、話をしやすい相手は、男女とも「パートナー」がトップで（男性79.0%、女性75.0%）、男性は次いで「同性の同僚」（19.3%）に話しやすく、女性は「友人・知人」（36.3%）に話しやすいと答えています［図6-2］。

相手別に話したい気持ちと話しやすさの差を見ると、いちばん大きいのが女性の「パートナー」に対するもので、13.0ポイントもの差があります。パートナーと話をしたいのに、思うように話ができていない様子がうかがえます。

［図6-1］妊活・不妊治療について話をしたい相手は?



［図6-2］妊活・不妊治療について話をしやすい相手は?

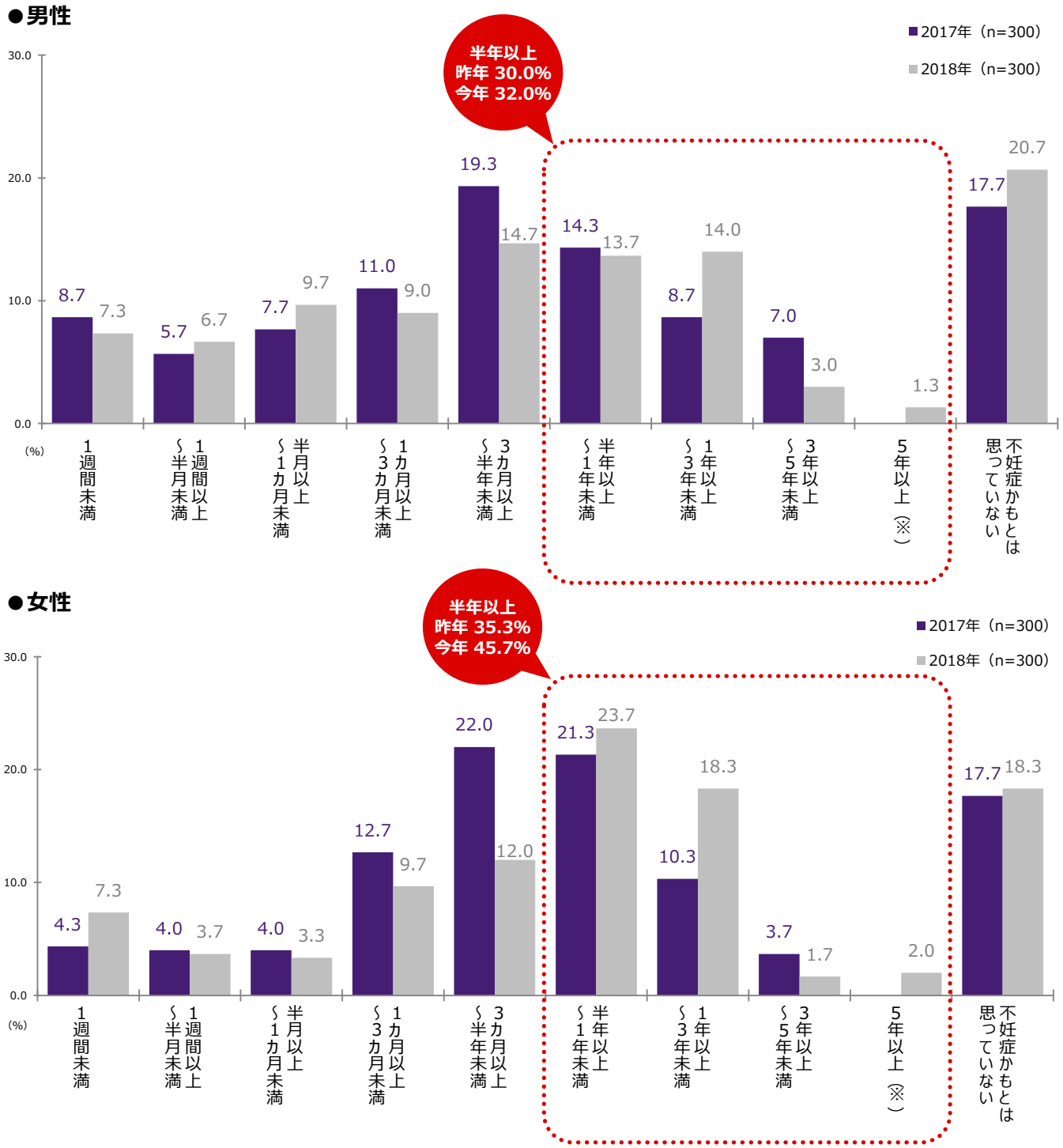


妊活後に不妊症を自覚するまでの期間は長期化傾向。「半年以上」が男性で3割、女性は5割近くも。女性は「半年以上」が昨年比で10ptも増加。妊活を始めても「不妊症とは思ってない」割合も増加傾向

妊活を始めてから自分は不妊症かもと思うまでの期間を聞くと、「半年以上」と回答した人が男性で3割（30.0%→32.0%）、女性は5割近く（35.3%→45.7%）にのぼりました。昨年と比べると、その割合は男女ともに増えていますが、男性が2.0ポイント増に対して、女性は10.3ポイントも増えています。

また、「不妊症かもと思っていない」人の割合も、男女とも昨年より増えています（男性17.7%→20.7%／＋3.0pt　女性17.7%→18.3%／+0.6pt）［図7-1］。

［図7-1］妊活を始めてから自分が不妊症かもと思うまでの期間は?



※「5年以上」は本年のみの聴取

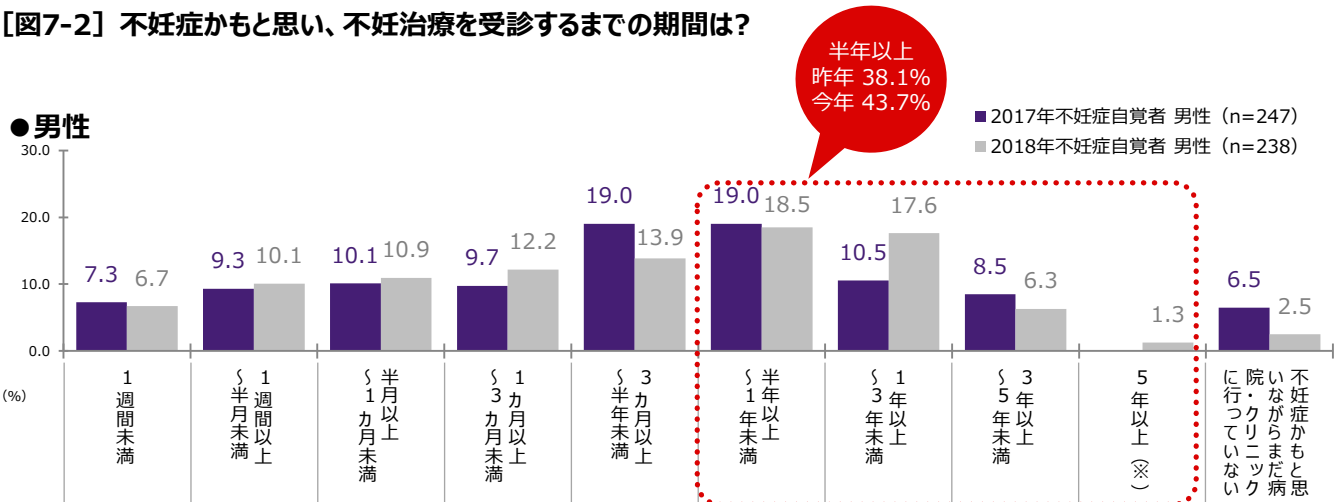
不妊症を自覚して受診するまで、女性の4割超が「半年以上」かかり、昨年比で1割増の長期化傾向
年齢とともに受診まで時間を要する傾向が強くなり、40代女性では55%が「半年以上」かかっている

自身で不妊症を自覚している男性238人、女性245人に、自覚してから実際に不妊治療を受診するまでの期間を聞きました。受診するまで「半年以上」かかっている人は、男性43.7%、女性46.5%と男女とも4割を超え、昨年（男性38.1%、女性36.8%）より男女ともに増え、特に女性は9.7ポイントも増えています。

半年以上かかっている女性の割合は年代が上がるほど高くなり、40代女性では55.4%と半数を超えています。また。「不妊症かもと思いながらもまだ受診していない」女性は13.9%いますが、昨年（19.0%）よりもやや少なくなっています［図7-2］。

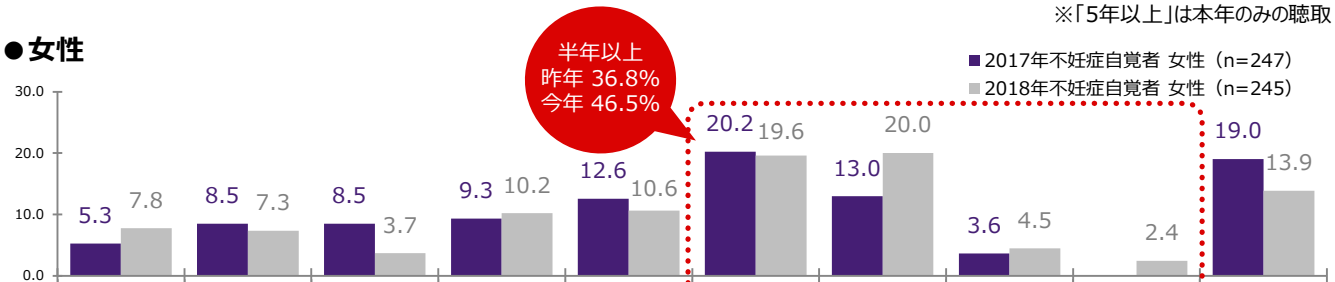
日本産科婦人科学会では、「夫婦間で正常な営みを過ごしていて、1年経つにも関わらず、子どもに恵まれない場合」を不妊症と定義していますが、不妊症を自覚しても半年から1年程度は受診せず、自覚しても放置したままの人も少なくありませんでした。

［図7-2］不妊症かもと思い、不妊治療を受診するまでの期間は?



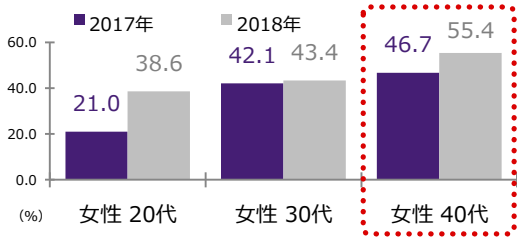
	1週間未満		1週間以上～半月未満		半月以上～1カ月未満		1カ月以上～3カ月未満		3カ月以上～半年未満		半年以上～1年未満		1年以上～3年未満		3年以上～5年未満		5年以上（※）		不妊症かもと思いながらまだ病院・クリニックに行っていない	
	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
男性 20代	10.7	8.5	16.7	18.3	15.5	15.5	11.9	8.5	17.9	11.3	11.9	16.9	3.6	14.1	2.4	4.2	-	0.0	9.5	2.8
男性 30代	10.3	3.7	6.4	3.7	5.1	9.9	7.7	14.8	17.9	12.3	26.9	27.2	12.8	19.8	6.4	6.2	-	1.2	6.4	1.2
男性 40代	1.2	8.1	4.7	9.3	9.4	8.1	9.4	12.8	21.2	17.4	18.8	11.6	15.3	18.6	16.5	8.1	-	2.3	3.5	3.5

※「5年以上」は本年のみの聴取



	1週間未満		1週間以上～半月未満		半月以上～1カ月未満		1カ月以上～3カ月未満		3カ月以上～半年未満		半年以上～1年未満		1年以上～3年未満		3年以上～5年未満		5年以上（※）		不妊症かもと思いながらまだ病院・クリニックに行っていない	
	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
女性 20代	6.2	7.1	11.1	8.6	8.6	4.3	11.1	10.0	7.4	14.3	9.9	18.6	11.1	15.7	0.0	4.3	-	0.0	34.6	17.1
女性 30代	1.3	4.8	10.5	9.6	10.5	4.8	6.6	6.0	14.5	12.0	25.0	18.1	14.5	22.9	2.6	1.2	-	1.2	14.5	19.3
女性 40代	7.8	10.9	4.4	4.3	6.7	2.2	10.0	14.1	15.6	6.5	25.6	21.7	13.3	20.7	7.8	7.6	-	5.4	8.9	6.5

●不妊を自覚して受診するまで「半年以上」かかっている女性の割合（年代別）



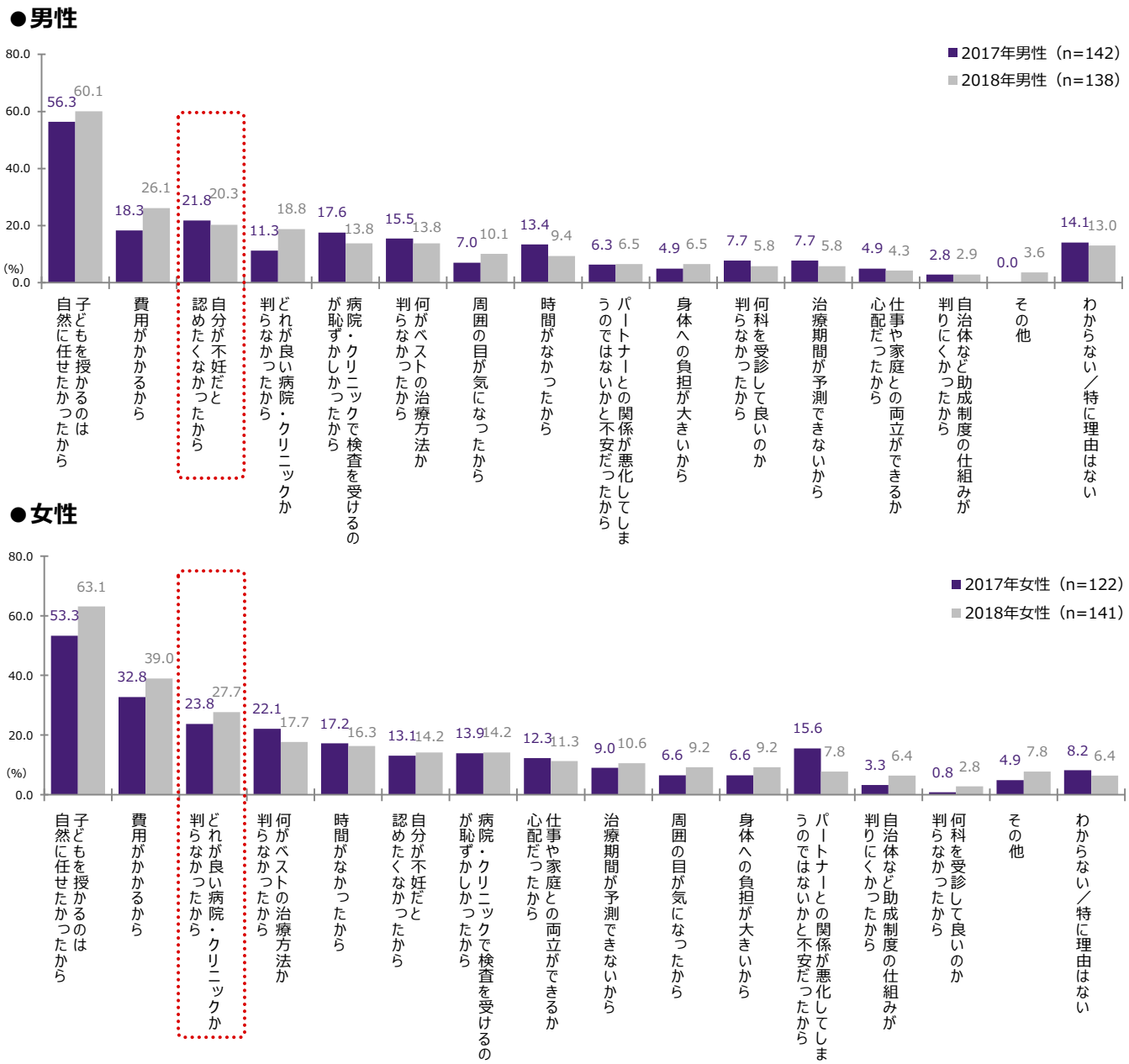
受診に時間がかかる理由は、「自然に任せたかったから」。その後、6割超が「もっと早く受診すれば」と後悔
女性は「良い病院・クリニックがわからない」、男性は「不妊と認めたくない」気持ちが障壁に

不妊症の自覚から受診までに3ヵ月以上かかったと答えた男性138人、女性141人にその理由を聞くと、男女とも「子どもを授かるのは自然に任せたかったから」がトップで（男性60.1%、女性63.1%）、昨年（男性56.3%、女性53.3%）よりもより強くなっており、女性では9.8ポイントも高くなっています。

次に多いのが、男女とも「費用がかかるから」（男性26.1%、女性39.0%）で、昨年（男性18.3%、女性32.8%）と比べると男性は7.8ポイントも伸長しています。また、昨年よりも減少しているとはいえ、男性の2割は「自分が不妊だと認めたくなかったから」（21.8%→20.3%）と答えています。

一方女性では、「どれが良い病院・クリニックか判らなかったから」（27.7%）という意見が3割近くにのぼっています［図8］。

［図8］不妊症かもと思いながらも受診するまで3ヵ月以上かかった理由は?

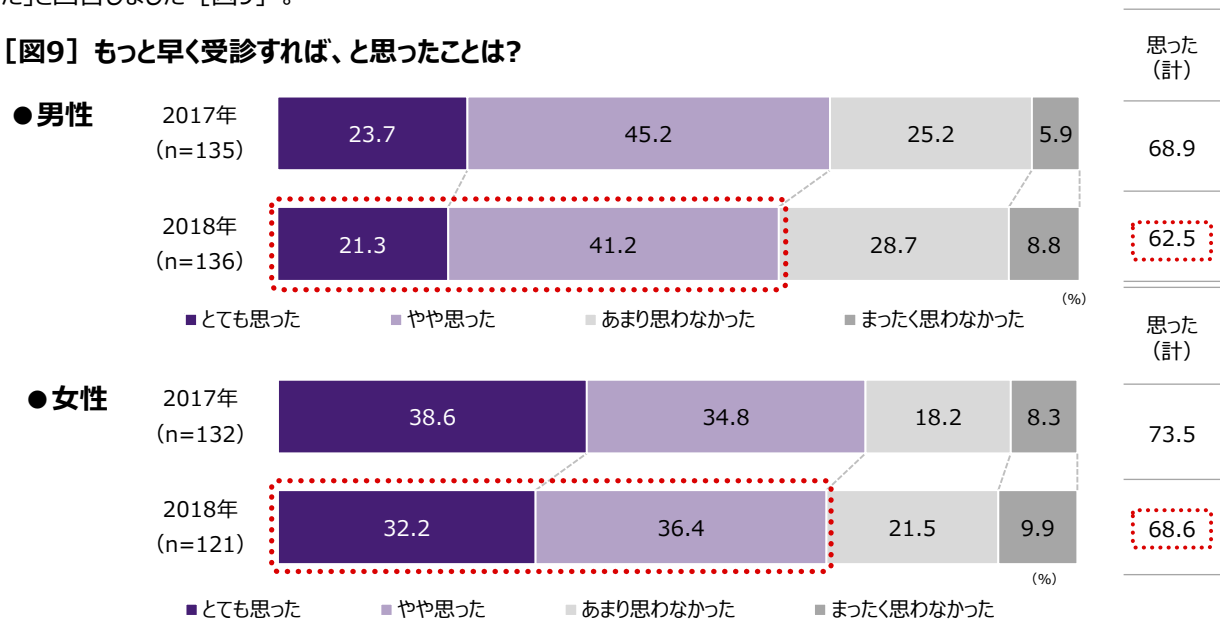


不妊治療経験者の6割以上が、ためらわず「もっと早く受診すれば、と思った」と回答

不妊治療を受けたことがあると答えた男性136人、女性121人に、もっと早く病院・クリニックを受診すればよかったと思ったことがあるかと聞くと、男性は62.5%、女性は68.6%が「もっと早く受診すればよかった」と答えています。

昨年（男性68.9%、女性73.5%）と比べるとやや少なくなっているものの、男女とも6割以上が「もっと早く受診すれば、と思った」と回答しました［図9］。

［図9］もっと早く受診すれば、と思ったことは?



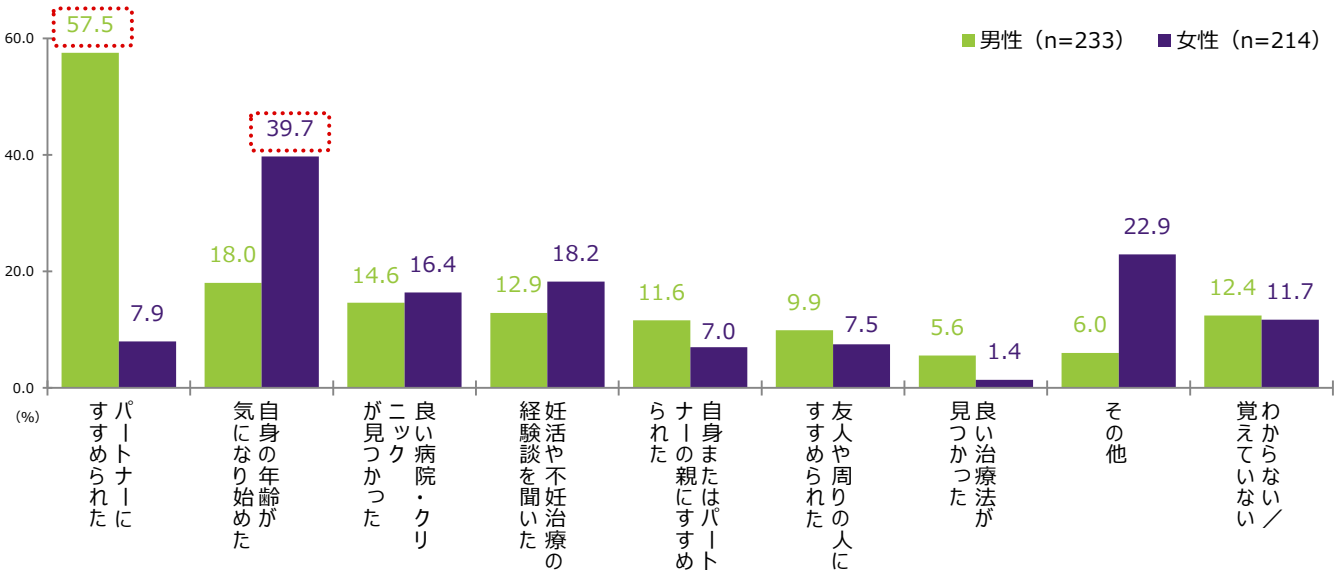
不妊症で病院・クリニックを受診した理由

年齢的な理由で“能動的に受診する”女性、パートナーにすすめられてやっと“受動的に受診する”男性

不妊症を疑い病院・クリニックを受診した男性233人、女性214人を対象に、病院・クリニックに行ったきっかけを聞くと、男性は「パートナーにすすめられた」（57.5%）が圧倒的に多く、不妊治療に対して受動的であることがわかります。

一方女性は、「自身の年齢が気になり始めた」（39.7%）が最も多く、「妊活や不妊治療の経験談を聞いた」（18.2%）、「良い病院・クリニックが見つかった」（16.4%）など、能動的に受診する傾向が見てとれます。男性1位の「パートナーにすすめられた」は、女性ではわずか7.9%しかいません［図10］。

［図10］病院・クリニックに行ったきっかけは?



不妊治療を受ける病院・クリニックの選び方

最も重視するのは、男性は「医師の評判」、女性は「立地（通いやすさ）」

不妊治療を受けたことがある男性136人、女性121人に、受診する病院・クリニックをどのようにして選んだかと聞くと、男性は多い順に「評判の良い医師がいる」（41.9%）、「立地（家から通いやすい）」（33.1%）、「実績が公開されている」（23.5%）となりました。

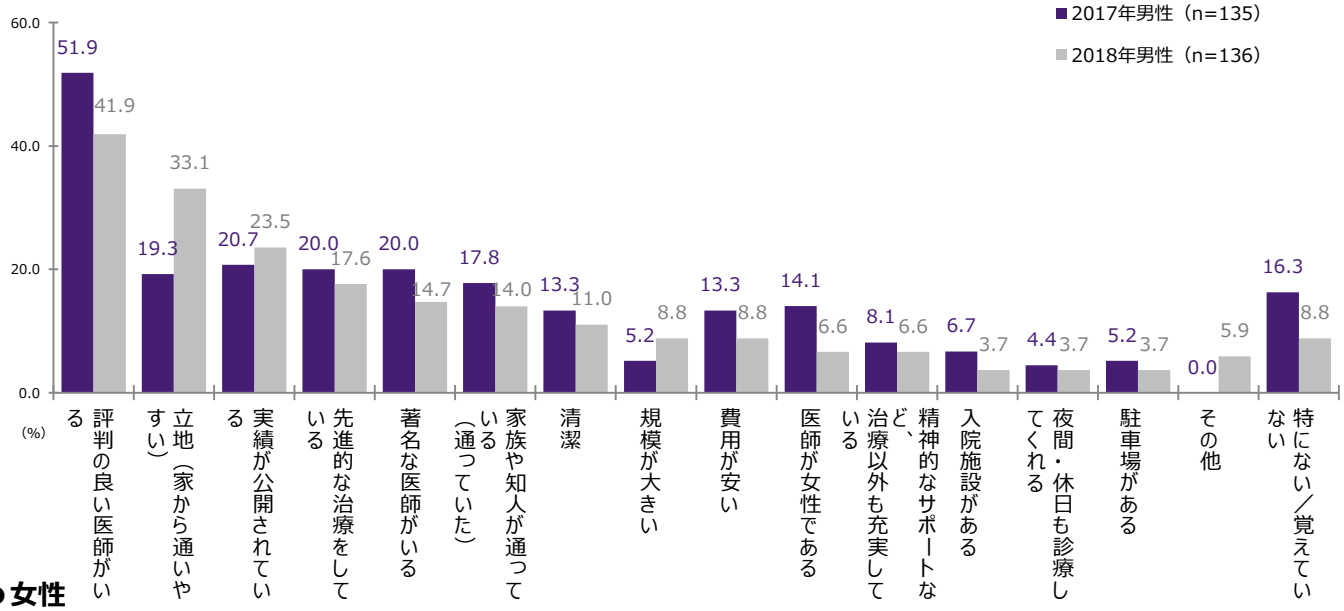
一方女性は、「立地（家から通いやすい）」（49.6%）がトップで、次いで「評判の良い医師がいる」（44.6%）、「実績が公開されている」（28.9%）の順となり、男性よりも「家からの通いやすさ」を重視していることがわかります。

昨年の結果と比較すると、男性は昨年は「医師の評判」（51.9%）や「実績」（20.7%）、「先進的な治療」「著名な医師」（同率20.0%）など、医療の質や専門性を重視していたのに対し、今年は「立地」（19.3%→33.1%）のウエイトが高くなり、女性同様、通いやすさを重視しています。

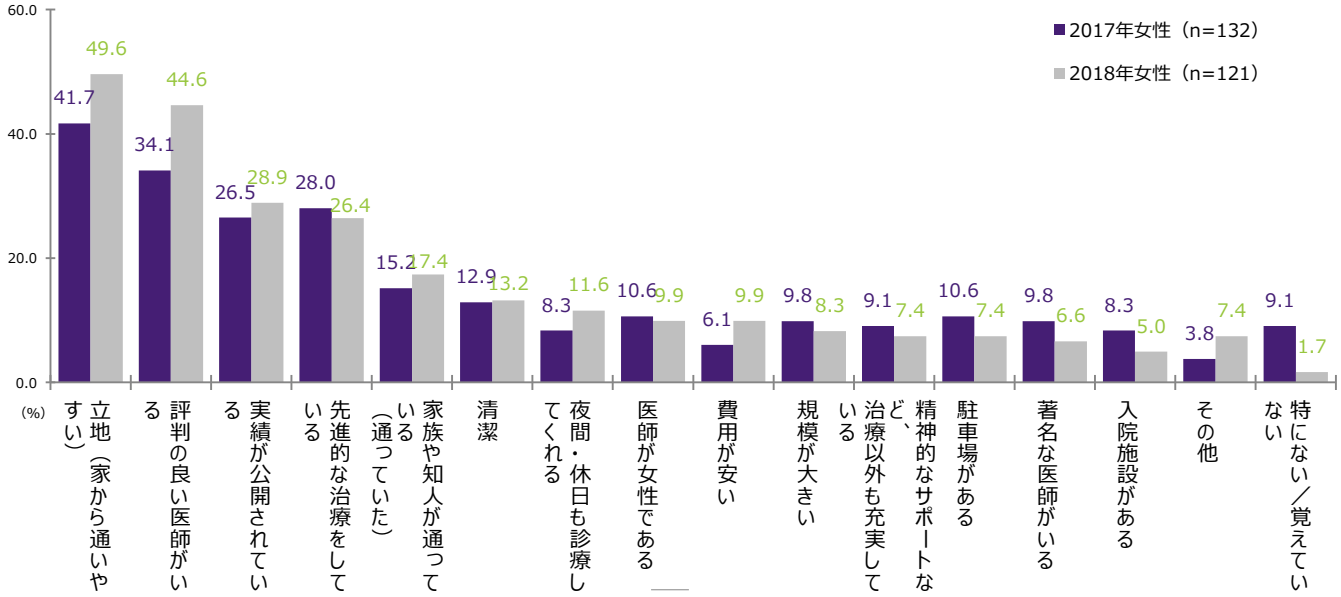
女性は、昨年から「立地」（41.7%）を最も重視していましたが、「評判の良い医師」を気にする割合が34.1%から44.6%へと10ポイントも高くなっています［図11］。

［図11］不妊治療する病院・クリニックはどのようにして選びましたか？

●男性



●女性

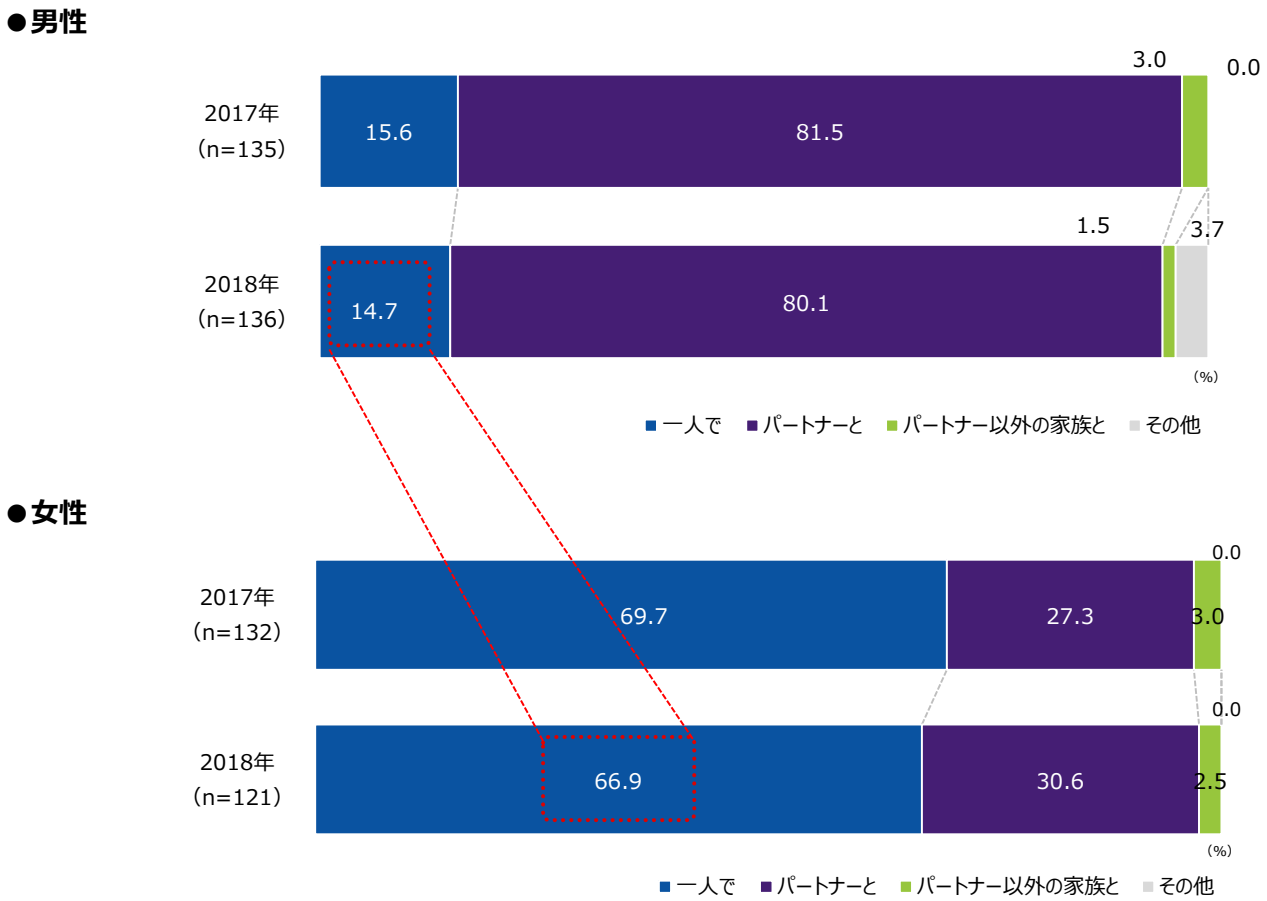


初めての不妊治療、「一人で」受診する女性、「パートナーと」一緒に行く男性
女性が一人で受診する理由は、「そういうものだと思っていたから」がトップ

不妊治療を受けたことがある男性136人、女性121人に、不妊治療で病院やクリニックを初めて受診するとき誰と行ったか聞いてみました。

男性は昨年に引き続き「パートナーと」（80.1%）が最も多く、女性も昨年同様「一人で」（66.9%）が最も多くなっていますが、昨年に比べると「パートナーと」一緒に行く女性が3割にまで増えています（27.3%→30.6%）［図12-1］。

［図12-1］初めて不妊治療で受診するとき、誰と行きましたか?

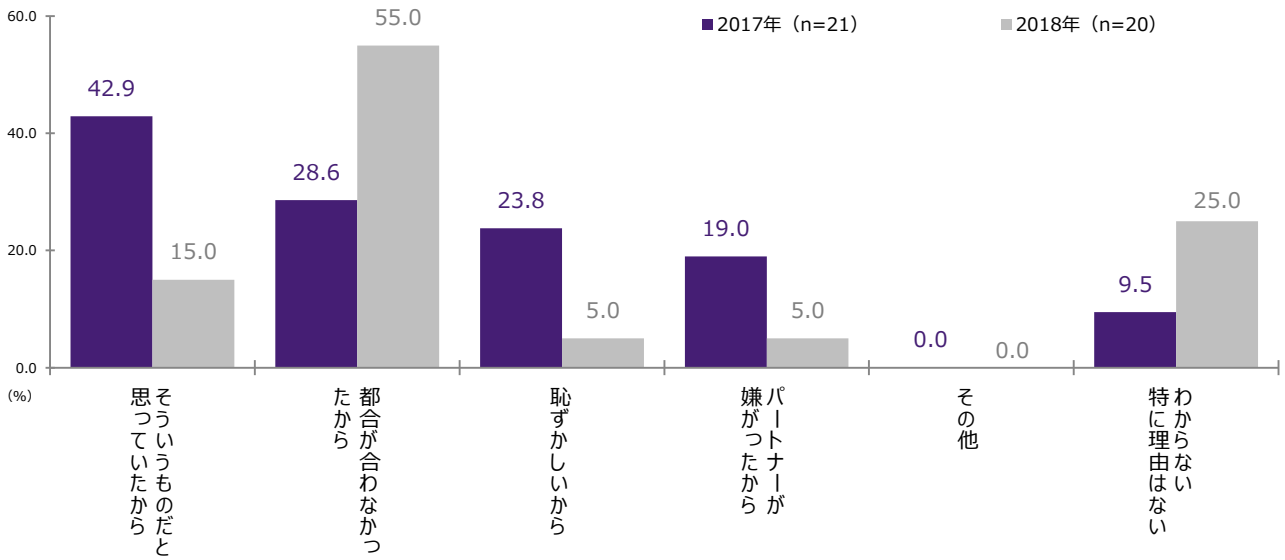


また、不妊治療で病院やクリニックを「一人で」受診したと答えた女性にその理由を聞くと、「そういうものだと思っていたから」（50.6%）という答えが最も多く、次いで「都合が合わなかったから」（24.7%）となり、昨年と同様の傾向です。

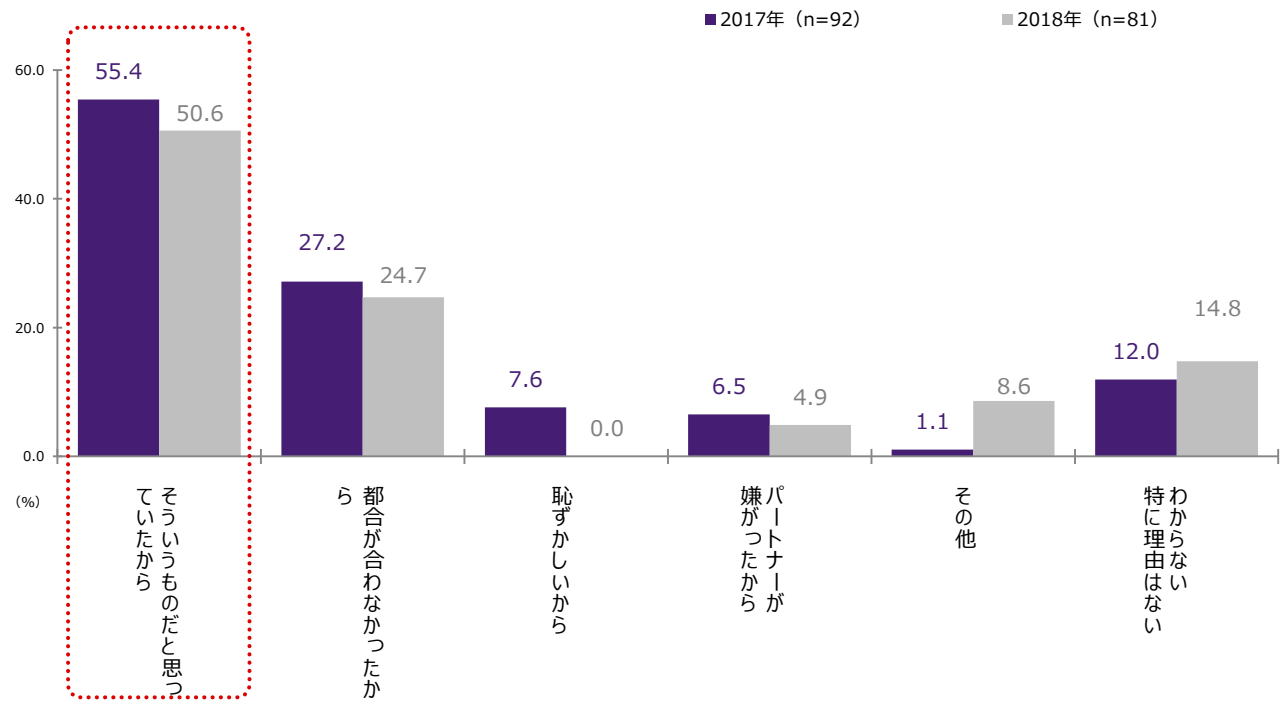
男性はサンプル数が少ないため参考値になりますが、昨年は「そういうものだと思っていたから」（42.9%）がトップなのに対し、今年は「都合が合わなかったから」（55.0%）が最多となっています［図12-2］。

［図12-2］初めての不妊治療を「一人で」受診した理由は?

●男性（参考値）



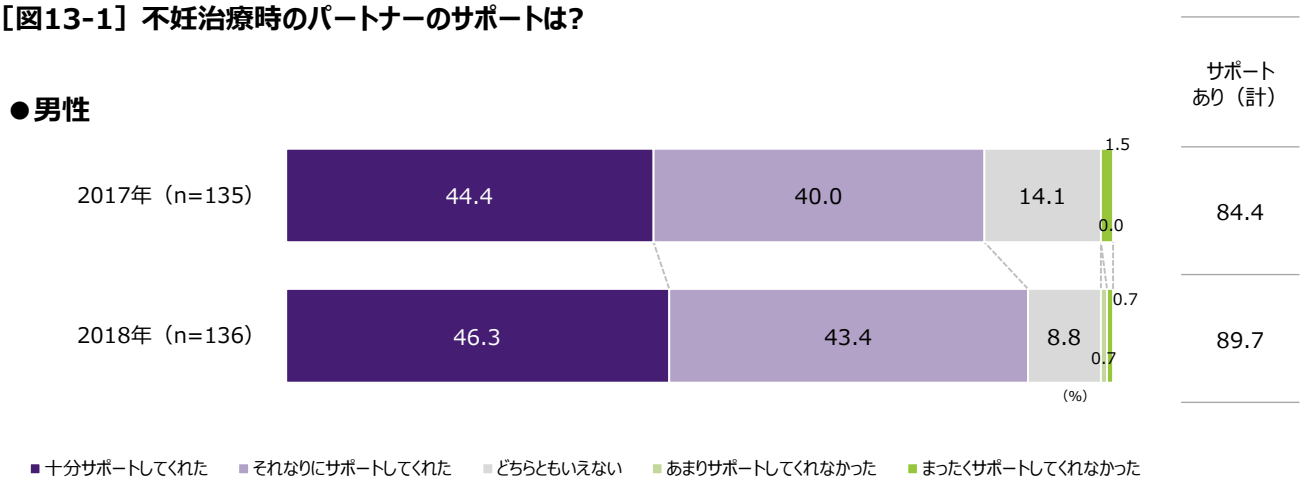
●女性

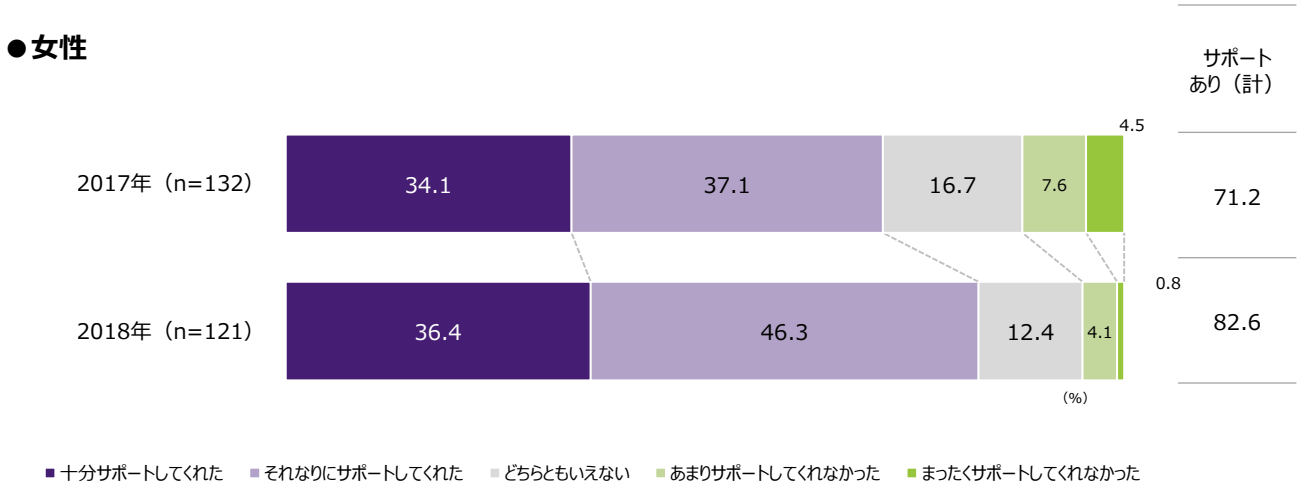


不妊治療時のパートナーのサポート環境がよりよい方向へ改善の兆し
一緒の通院を望む男性に対し、女性は「もっと関心を持って」「もっと話を聞いて」と心のケアを望んでいる

不妊治療を受けたことがある男性136人、女性121人に不妊治療時のパートナーのサポートについて聞くと、男女とも8割以上が「サポートがあった」と答えています（男性89.7%、女性82.6%）。昨年よりも男女ともに増えていますが、特に女性は71.2%から82.6%と10ポイント以上も高くなり、昨年は12.1%と高かった「サポートがなかった」が、今年は5.0%にまで低くなっています［図13-1］。不妊治療時におけるパートナーのサポート環境が、改善されつつあることがうかがえます。

［図13-1］不妊治療時のパートナーのサポートは?

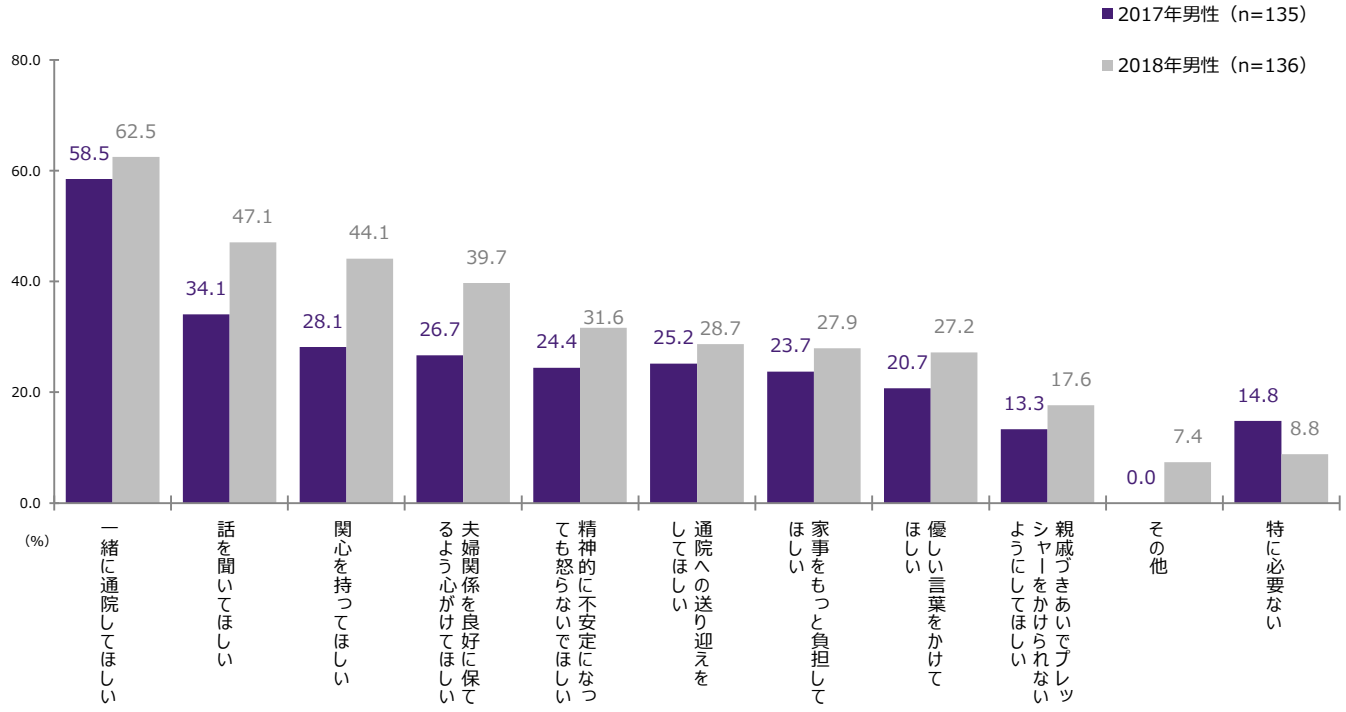




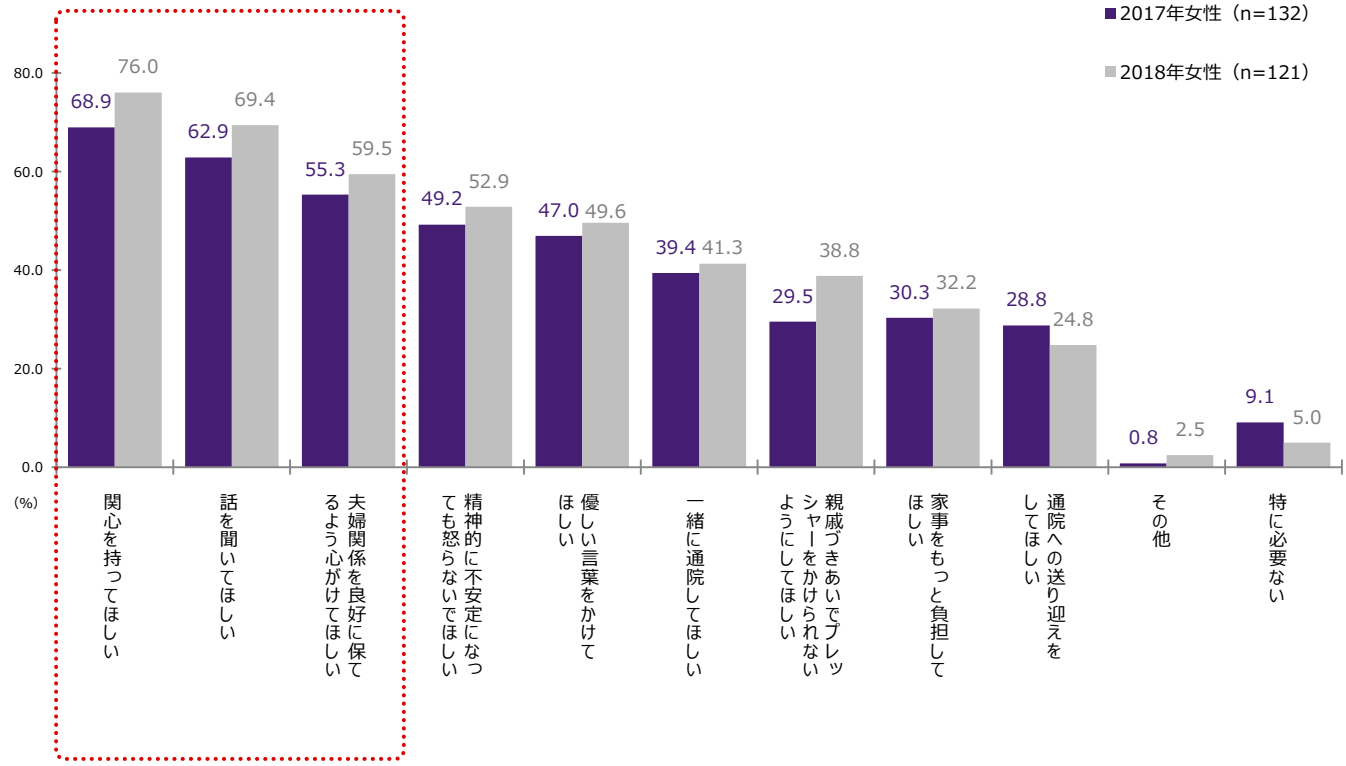
では、パートナーにどんなサポートを望むか聞くと、男性は「一緒に通院してほしい」（62.5%）が昨年（58.5%）に続きトップです。女性も昨年と同様の結果で、「関心を持ってほしい」（76.0%）、「話を聞いてほしい」（69.4%）、「夫婦関係を良好に保てるよう心がけてほしい」（59.5%）など、パートナーとのより密接なコミュニケーションや、精神的なケアを望んでいることがうかがえます［図13-2］。

［図13-2］不妊治療時に望むパートナーのサポートは?

●男性



●女性

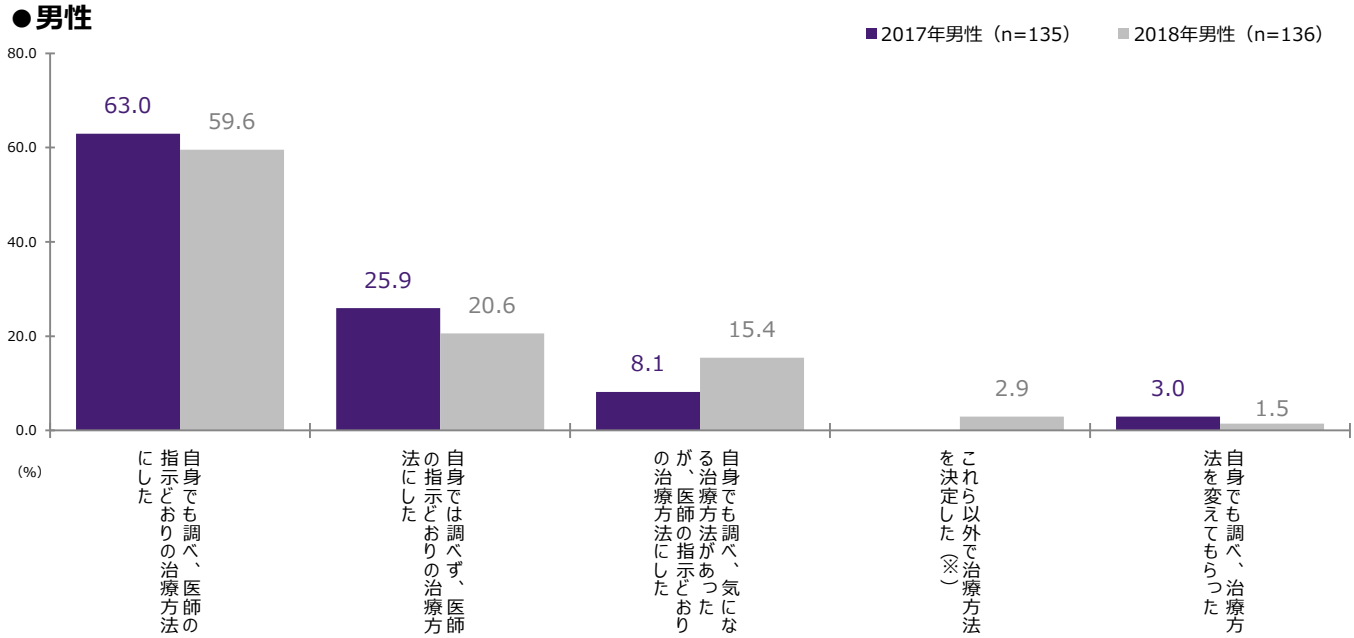


不妊治療への関心が高い女性、治療方法を自分で調べる女性が昨年より13ポイントも増加
治療中も「医師に詳しく聞く」以上に、「インターネットで治療内容」を調べている

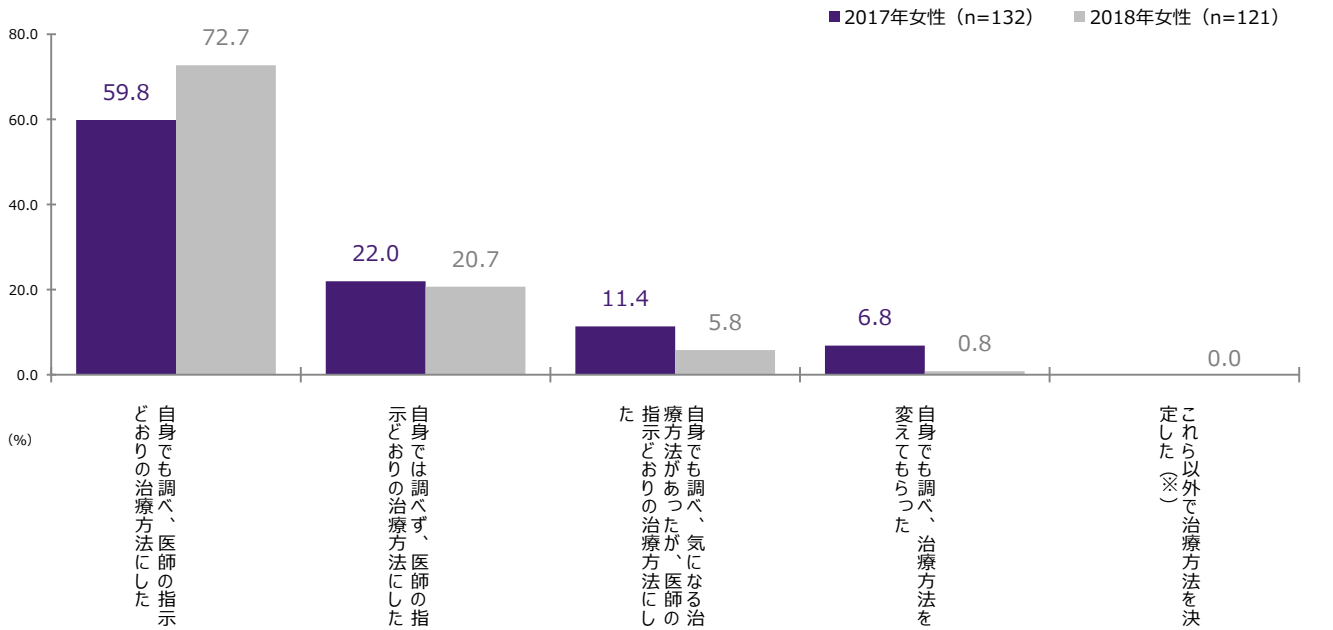
不妊治療を受けたことがある男性136人、女性121人に、治療方法をどのように決めたか聞いてみました。男女とも、「自身でも調べ、医師の指示どおりの治療方法にした」（男性59.6%、女性72.7%）が最も多くなっていますが、女性の方が男性よりも13.2ポイントも高く、昨年の女性の結果（59.8%）と比較しても、12.9ポイントアップと急増していることから、女性は、不妊治療についてより関心が高く、自分で熱心に調べているさまがうかがえます［図14-1］。

［図14-1］不妊治療方法はどのように決めましたか？

●男性



●女性



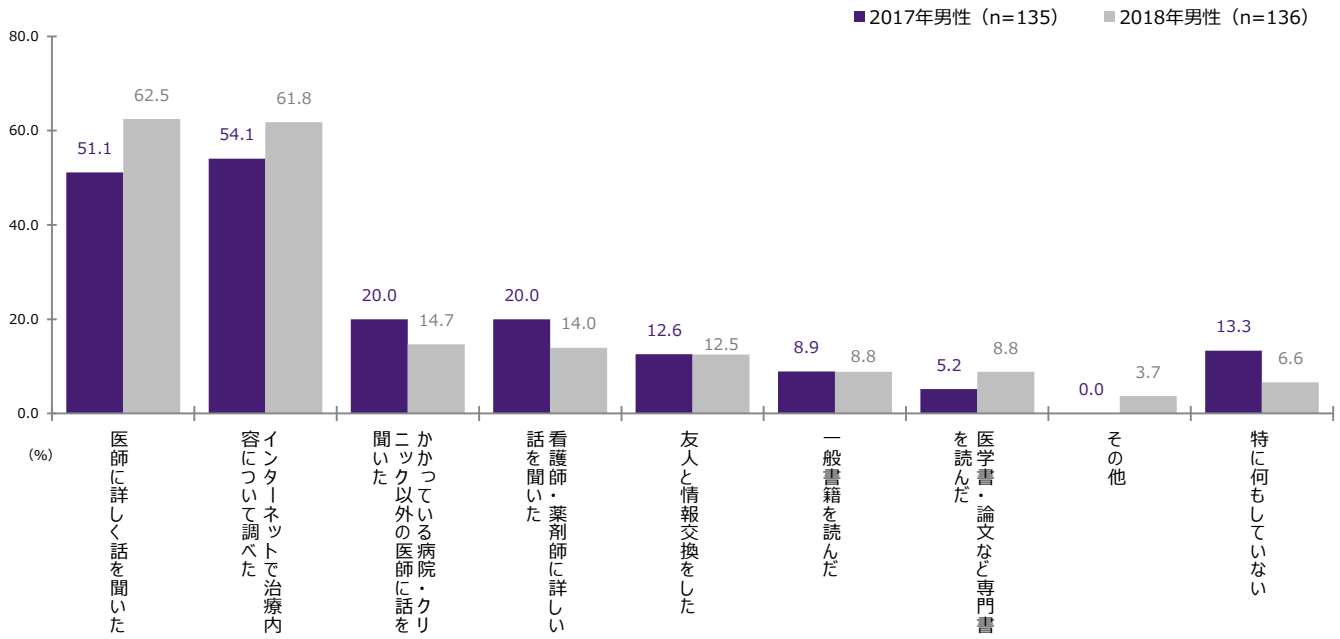
※「これら以外で治療方法を決定した」は本年のみの聴取

不妊治療中にしていたことを聞くと、男性は「医師に詳しく話を聞いた」（62.5%）と「インターネットで治療内容について調べた」（61.8%）がツートップです。女性も同じ傾向ですが、「インターネットで治療内容について調べた」が79.3%と男性よりも17.6ポイントも高く、2位の「医師に詳しく話を聞いた」（69.4%）とも9.9ポイントもの差がついています。［図13-1］と同様、女性は自分で徹底的に調べたい、という意向が大きいようです。

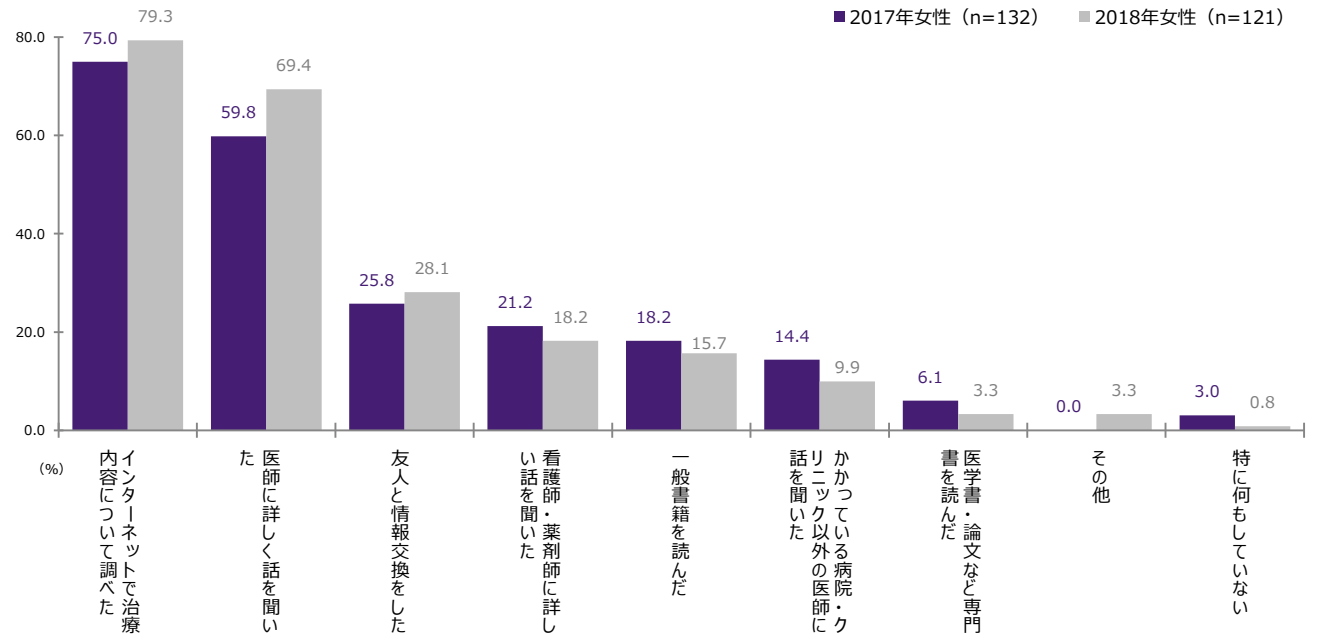
昨年の結果と比べると、男性は「インターネットで治療内容について調べた」（54.1%→61.8%）が7.7ポイント、女性は「医師に詳しく話を聞いた」（59.8%→69.4%）が9.6ポイント伸び、男女の差が縮まっているようです［図14-2］。

［図14-2］不妊治療中にどのようなことをしましたか？

●男性



●女性



不妊治療に望む3大ポイントは2高1低。「高効果」「高安全」「低価格」
昨年と比較すると、「治療費の安さ」よりも「安全性」をより重視する傾向に

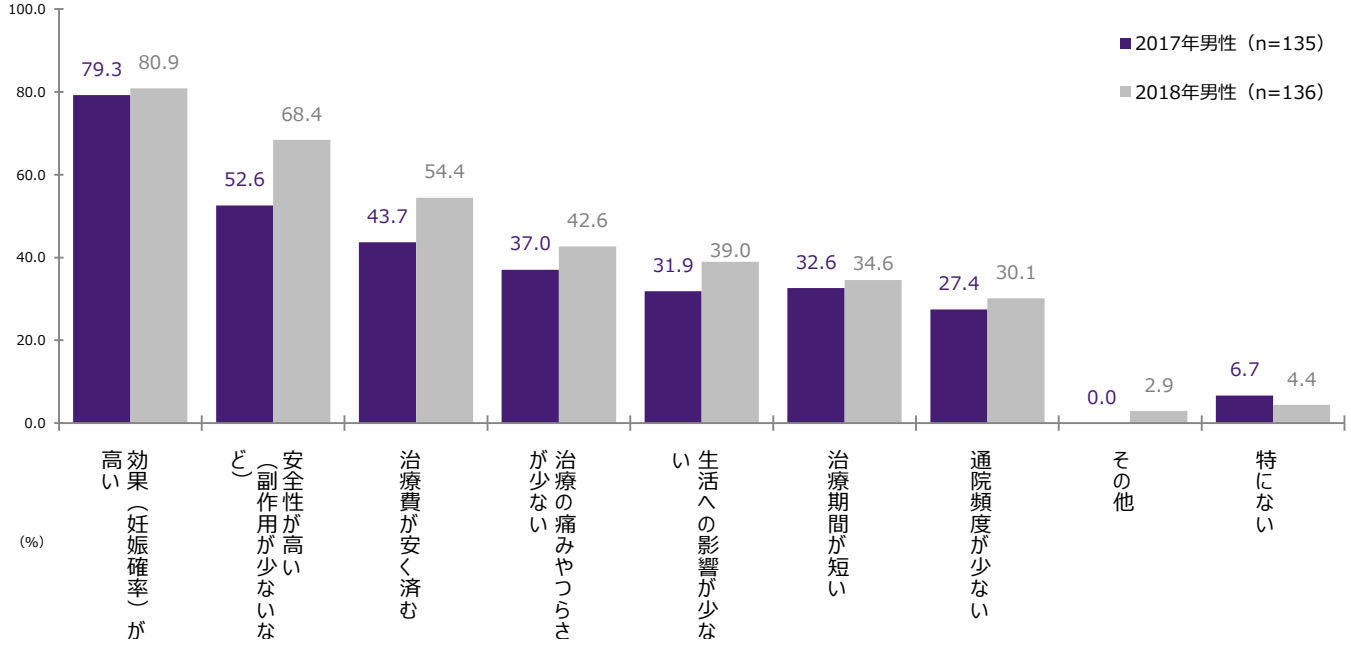
不妊治療を受けたことがある男性136人、女性121人に、どのような不妊治療を望むかと聞くと、男女ともに1位は「効果（妊娠確率）が高い」（男性80.9％、女性86.0％）、2位「安全性が高い（副作用が少ないなど）」（男性68.4％、女性73.6％）、3位「治療費が安く済む」（男性54.4％、女性65.3％）の順となりました。

すべての項目において、男性より女性の方がスコアが高く、不妊治療に対する女性の関心・要望の高さが示唆される結果となっています。

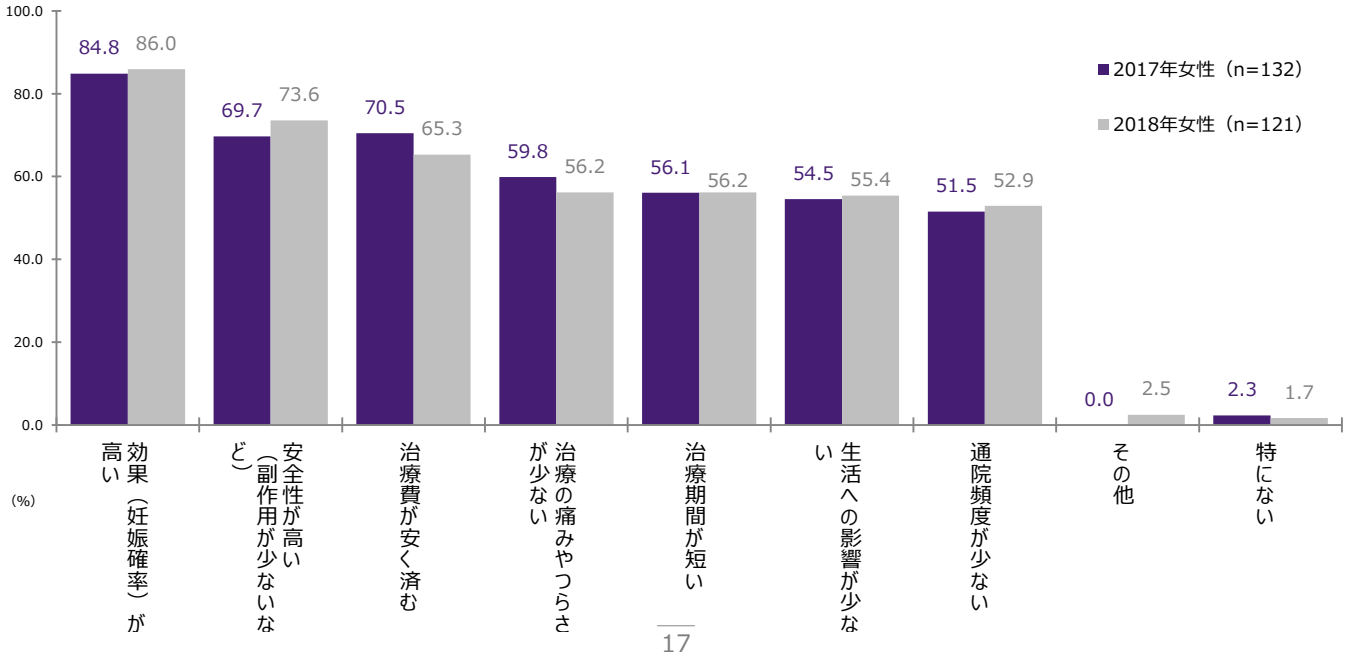
また、昨年の結果と比べると、女性は「治療費」（70.5％→65.3％／−5.2pt）よりも「安全性」（69.7％→73.6％／＋3.9pt）を重視するようになっていますが、男性は、「治療費」（43.7％→54.4％／＋10.7pt）への関心と同時に「安全性」（52.6％→68.4％／＋15.8pt）への関心も大きく高まっています［図15］。

［図15］どのような不妊治療を望みますか?

●男性



●女性



苛原 稔先生コメント

苛原 稔（いらはら みのる）先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部

産科婦人科学分野 教授

一般社団法人 日本生殖医学会 理事

日本で1人の女性が生涯に産む子どもの平均数「合計特殊出生率」は、2016年では1.44※1、2017年では1.43※2で2年連続で下がりました。最低を記録した2005年の1.26からは緩やかに回復しているものの、国が目標として掲げる「25年度末までに出生率1.8」の達成は厳しさを増しています。

一方で、昨年に引き続き実施した「妊活および不妊治療に関する意識と実態調査」においては、未婚、既婚問わず20代から40代の男女の約半数（男性 50.0%、女性45.8%）がいつか子どもを授かることを望んでおり、その割合は昨年（同 44.5%、45.1%）より今年の方が男女とも高くなったことがわかりました。このことから、現在の日本は必ずしも子どもが望まれない社会というわけではないことがうかがえます。

日本では、不妊治療患者さんの平均年齢は40歳前後※3 と、治療が遅れがちなことも出生率の低下の一因とみられますが、妊活を始めてから自分が不妊症かもと思うまでの期間について、女性は「半年以上」かかった人が昨年から10ポイントも上がっています（昨年35.3%→今年45.7%）。同様に、不妊症かもと思ってから不妊治療を受診するまでの期間も長期化する傾向がみられました（半年以上かかった男性38.1→43.7%、女性36.8%→46.5%）。

さらに、妊活や不妊治療について話をしたい相手として、男女とも「パートナー」が最多（男性85.3%、女性88.0%）ですが、実際に話をしやすい相手として「パートナー」を挙げる人の割合は下がり（同 79.0%、75.0%）、女性では13ポイント減となっています。さらに、「親」、「同僚」、「上司」などのポイントはいずれも低く、話をしやすい相手だけでなく、話をしたい相手も少ない様子がうかがえます。パートナー以外に妊娠や不妊について話をすることが憚られる社会は、妊活や不妊治療への理解が高いとはいえず、そのことがますます妊活の遅れを助長したり不妊治療への心理的なハードルを高めたりすることにつながりかねません。

子どもを望む方々が、安心して妊活や不妊治療に取り組める社会になるには、正しい知識の浸透が不可欠です。正しい知識が浸透することで、周囲の理解も深まり、地域や職場などの社会的なサポートも充実するでしょう。そのために、我々はより一層、正しい知識を提供することが重要と考えます。

※1：厚生労働省「平成29年人口動態統計月報年計（概数）」（平成29年6月2日発表）

※2：厚生労働省「平成29年人口動態統計月報年計（概数）」（平成30年6月1日発表）

※3：日本産科婦人科学会生殖医療データベース https://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/data.htm